

学校 教育 目標	『豊かで調和のとれた子の育成』		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくましく生きる人: 体を鍛え心しなやかに、粘り強く学習に取り組む心身ともに健やかな子ども</li> <li>・なかよく生きる人: 一人ひとりのよさを認め合い、多様な人々と協働し合う子ども</li> </ul>		
○多面的・多角的な見方や考え方で自ら問題を発見し、それを主体的に追究していける子を育てます。(知) ○田畑や自然・人など本物に触れる体験を通して、豊かな感性や相手の立場や気持ちを思いやって行動できる優しさを育みます。(徳) ○心と体をすこやかに育もうとする子を育てます。(体) ○人と豊かにかかわりながら、自分の役割と責任を自覚し、自ら考え行動し続ける子を育てます。(公) ○多様な価値観を認め合い、人とのかかわりを大切にすることを育てます。(開)			

学校概要	創立 148 周年	学校長 酒井 浩明	副校長 井上 和浩	2 学期制	一般学級: 16	個別支援学級: 3
	児童生徒数: 544 人	主な関係校: あかね台中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	あかね台中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくりに関する力 問題発見・解決能力 持続可能な社会の創造に貢献する力	あかね台中学校 田奈小学校 奈良の丘小学校	自ら進んで学び、鍛え、共に生きる子ども ・中一ギャップを減らすために、中学校を知る機会として部活動体験、生徒会説明会を設ける。 ・小中合同授業研究会を開催し、職員の交流や情報交換を行うとともに、相互理解を図る。 ・まち懇や地区懇で情報交換を行い、地域と連携を図りながら子どもを育てる。

中期 取組 目標	○子ども一人ひとりを大切にしながら、まちと保護者とともに歩む学校にします。 ・一人ひとりが自己有用感を持ち、楽しく学校生活が送れるようにします。 ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを進め、思考力・表現力を育てます。 ・まちの自然、人、ものと豊かにかかわり、まちを愛する心を育てます。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①全教員で国語の指導方法を読解力の側面から研究し、子どもの思考力・判断力の育成に取り組む。 ②書く活動やグループ討議などを取り入れ、子どもの考えを引き出す授業に取り組む。 ③3・4年生で算数のT・Tできめ細かな指導を行う。 ④授業で粘り強く取り組む態度を育み、家庭学習の習慣化と中・高学年での自学ノートを通して自ら学ぶ力を育てる。 ⑤5・6年生で担任間の理科・社会・体育の教科交換を取り入れ、教科担当制の拡張により、学びの質が高まるようにする。
担当 学習指導部	
特別支援教育	①交流教育委員会で児童状況や交流の取組方針等を共有するだけでなく、個別担任からの交流級担任への情報聴取を活発化し、より連携した指導を行う。 ②個別支援学級では、さらに個の特性に応じた学習を進め、一般級では特別支援コーディネーターが中心となり、迅速に校内委員会を開催し、取り出し指導や通級への入級などに対応する。 ③特別支援教育の研修や療育青葉との連携によるコンサルテーションを行い、授業実践や児童指導に生かす。
担当 心豊かな生活環境部	
地域連携	①地域の材(人・自然・施設)とかかわる生活・総合等の学習を継続し、4年福祉と6年キャリア分野を充実させる。 ②水田・菜園等の活用学年や方法を工夫し、トランペット鼓笛隊、その他の学習においては地域・保護者の協力や教育力を積極的に活用する。 ③校歌の歌詞や保護者のニーズでもある国際性を育てる一つの取り組みとして4年生の英語村を継続する。 ④子どもたちが、まちの人やものに対して愛着心をもつようになる一つの方法として、「みのたな博物館」を3年生や6年生の学習材として積極的に活用する。
担当 教育課程評価担当	
豊かな心	①人との関わり方が身に付くように、基本的な話型を指導するとともに、学級や縦割り班などで積極的に支援を行う。 ②体験学習、水田、畑を活用した学習を継続し、自然や自他を大切にする態度を育てる。 ③1・2・5年生で保育園との交流を推進し、年下の子どもとのかかわる経験を確保できるようにする。 ④道徳の授業を年1回保護者に公開し、道徳の大切さへの保護者理解を図る。
担当 学習指導部	
児童生徒指導	①職員でスタンダードを共通理解指導にあたる。スタンダードを毎年見直し、保護者に紹介し協力を得る。 ②自主性が育つように、子どもの発想を取り入れたあいさつ運動に取り組む。 ③児童指導上の課題は、迅速に主任・専任・管理職に相談し、組織で対応していく。
担当 心豊かな生活環境部	
いじめへの対応	①子どもと十分にかかわり実態を把握、年2回の子どものアンケート、年2回のYPアセスメント、田奈小独自アンケートによりいじめの未然防止に確実に取り組む。 ②いじめ防止研修や人権研修を行い、自分の人権感覚や指導を振り返り、日々の指導を見直し改善するきっかけとし、よりよい学級風土をつくる。 ③子ども一人ひとりの状況を全職員で情報共有し、チームによる支援を進める。 ④いじめ防止対策定例会は月一回、いじめ防止対策委員会は、必要に応じ速やかに開催する。 ⑤いじめ防止基本方針は、絶えず見直し取組を改善する。
担当 生活環境部・いじめ防止委	
健やかな体	①体育では、ガイドラインを守りながら活動方法を工夫し、運動量の確保と充実した学習が行えるようにする。 ②体育で縄跳び(短縄・長縄)に継続的に触れるようにし、全校で縄跳び検定、がんばり教室、記録会に取り組む。 ③3年生は外部講師の協力で一輪車教室に取り組み、4年生もコロナ禍で減った一輪車運動を補うようにする。
担当 体育部・教育課程評価担当	
人材育成・組織運営 (働き方改革)	①昨年度立上げた2部会組織を計画的、効率的に機能させ職員の視野を広げ、仕事の偏在解消と質の向上を図る。 ②事前の情報収集や相談、点検を充実し一人ひとりの仕事の質の向上により、全職員の時間拘束の低減を図る。 ③自己観察に関わる面談等を通して、適切な自己目標を設定し、常にその観点から振り返り自己研鑽に努める。 ④五年以下の職員でメンターチームを組織し、キャリアステージⅡの教職員による相談会を月一回行う。 ⑤職員スタンダードを見直ししながら、その実践を通して、資質(社会性・人間性)・能力の向上に努める。
担当 管理職・教務会・MT	